Lil-t.　Allen’s Encyclopedia

＜General＞

客観

プルービングの間、彼女は太ってきて、8ポンド増えた（44日目）。極度のやせ衰えと衰弱。より活発、物事は簡単に行った最初の日）。震え（14日目）。神経性の震え、夕方にかけて（2回目の服用後1時間、2日目）。起床時、病気の発作のように震え、弱々しい（12滴後、2日目の朝）。始動（3日目）。ほぼ全身の筋肉の痙攣性収縮。ヒステリー。全身の筋肉が彼女の意志に緩慢に反応する（44日目）。神経衰弱。倦怠感。

全身倦怠（29日目）。午後の全身倦怠感と大きな熱感（16日目）。気だるさ;倦怠感（12日目）。大きな倦怠感、3日間（6日後）。気だるく、遅く、忘れっぽい（33日～44日）。気だるく、むしろ眠い（9時間後）。鈍い、眠い、気だるい（4時間後）。前日の衰弱と過敏性（24日目）。体力の喪失、腸の衰弱と震え（43日目以降）。下痢に続く極度の消耗。衰弱。特に暖かい部屋や長時間立ち仕事の後、頻繁に失神する；手の甲と足に冷たい汗をかく（43日後）。落ち着かない（31日目）。落ち着きがなく、何かをしたいという欲求があるが、意欲がない（7日目）。落ち着かない、疲れた感じ（6日目)。

全身が落ち着かない、午後5時（9時間後、8日目）；夕方とベッドに入った後に増加する（8日目）。急ぐ感じ；一日中歩く；考えたり読んだりして自分を楽しませることができない；目的のない急ぎ足と動き、上下に動く；寝ることができない；誰かが一緒にいて話しかけて欲しい；死ぬべきだと感じ、死んでも気にしない；誰が自分の体の世話をするのかと思う（61日目）；歩き続けたいという同じ落ち着かない願望（75日目）がある。挿れても静かに座りたくない；落ち着かないが歩きたくない；横着で小言が多い（40日目）。多くの神経質（3日目）。

主観

神経質で過敏な感じがすると自覚しているが、陽気な感じがすると言っている（20日目）。神経症状、毎日9時間後に始まり、初日はあまり強くなかったが、日毎に悪化する（最初の5回の服用後）。全身の過敏性（11日目の夜）。全身が薬物によって深く影響されていると感じる；「彼女はかつての自分ではない」；急いでいると感じるがあまりできない；これまで負担にならなかった仕事に対する心も力もない；どんな仕事もする気にならない（30日）。動物的生活が優勢で、自分の命が消えていくような気がする（六十九日）。大いなる衰弱を感じる(6時間後、23日目)。一週間、精神的または肉体的な運動が全くできない。午後、全身がかすかに痛み、2時間程は非常に激しく、その後徐々におさまる(24日目)。夜中に呼び出され、再び横になった後、惨めで落ち着かず、すべてが熱すぎるように思えた（7日目）。

一晩中激しい痛み（12滴投与後17日目）。内外に灼熱感がある（14日目）。全身の肉と骨の痛み(12滴後7日目と9日目)。筋肉は打撲したように跛行し、足の裏は痛くて歩けない; 手は作られたような感じ; 全身のあらゆる部分が痛み、打撲する; 衣服の圧迫に耐えられない(12滴後18日); 一連の症状はほぼ4週間彼女を離れなかった。朝、痛みはないが、痛みに続く痛覚がある（27日目）。全動脈の脈動（20、22日夜）。午後、全身の脈動と手と腕の押し出し感、静脈を流れる血液が破裂するような感じ（16日目）。痛みはすべて小さな点を占め、まるで指の先でその部分を強く押すと生じるかのようだ（2回目の服用後、1日目）。症状は徐々に重くなり、48日目まではほとんど変化がなかったが、Helonias dioicaを内服すると24時間以内に緩和され、3日後には完全に緩和された。

＜感情＞

最も顕著な効果は精神と生殖器官によって示された。

夜、興奮し、泣き、自分が二人の人間になったように感じる（65日目）。

彼女自身にしがみつかないと気が狂いそうな感じ。

わずかな譫妄と驚き（3日目）。

一人でいることを嫌うが、恐怖は感じない；平静だが、他人を見たり、話を聞いたりするのが好き（23日目）。

日中、無口で寡黙（3日目）。

憂鬱（42日目）。

気鬱、泣く気質（10日目、12日目）。

気鬱；常に泣きたくなり、恐怖心を伴い、すでに定着した何らかの恐ろしい内部疾患に苦しんでいるのではないかと不安になる（2人のプルーバーが観察した非常に顕著な症状）、（43日後）。

深遠な精神的抑圧；「天は真鍮に、地は鉄に見えた」という諺がある。

道徳的な不順さへの懸念が、性的興奮の後約10日間、証明の後4ヶ月以上性的興奮と交互に続いて、彼女をひどく苦しめた。

抑うつ状態（40日目）。落胆，夜間増悪，朝方下痢，大いなる遅滞感，仕事不能（65日目）。

気力減退（6日目）。

気力がなく、仕事によって解消されない（8日目）。

気力がなく、よく泣くのを我慢することができない。

寝るときはもっと悪い；眠れない；頭がおかしくなりそうで、誰も私の世話をしてくれない；自殺を考える；いくらアヘンがあれば私は永遠に眠れないだろう、誰が私の死体を見つけ、誰が世話をするだろう；彼女にとって新しい思考回路だ（8日夜）。

この間、精神的な不安はかなりあり、落胆し、陰鬱で、自分の考えを表現するのが難しく、回想し、言葉を選び、妹に狂気の恐れを訴えた。

常に心に悩みを抱えていた（31日夜）。

災難や重病への不安が非常に大きくなった。

朝、目が覚めて、イライラする（14日目）。

夕方になると、いらいらする（1日目）。

夕方、イライラして、心身ともに落ち込んで、仕事にならない（7日目）。

いらいら焦る（29日目）。

誰かに話しかけられ、楽しませてもらいたい（この感覚はかなり、珍しい）；かなり神経質になる；腹部と骨盤の臓器が何かおかしいという苛立ちから泣きたい；急いでいるのにできない、まるでやることがたくさんあるのにそれをできないように感じる（22日目）。

講義を受けながら、講義を殴りたくなり、夕方には悪態をつき、火や物全般を非難し、卑猥なことを考えたり話したりしたくなり、人を殴ったりしたくなり、これらの感情が来ると子宮痛が治まる（43日目）。

十字架になり、何事にも、誰に対しても忍耐がない（33～44日目）。

元気であったのに、突然雲のように症状が襲ってくる（36日目）；活力やキレを失い、座って泣いたり、自分に焦がれて泣きわめいたり、しかし急がされたように感じる；いつまでもあてもなく歩いたり走ったりできる；この落ち込みとともに、あらゆる上等なものを欲しがる；自分が持っているものに不満を持ち、他人をうらやましがる（36日目）。

誰に対してもむかつく気持ち、話しかけられたくない（11日夜）。

喜ばれたくない；話したり読んだりする気にならない（6日目）。

知的。

義務的な任務とそれを遂行する全くの無能力のように常に急ぐ感じ；性的興奮の間。

愚かな感覚（4日目）。

知覚と反射の能力は麻痺しているように見えるが、最初は過敏で、2つの人格があるように見えた（25日目）。

知恵と直感は鈍く、気だるい（30日目）。

鈍感、正しい言葉が見つからない、言いたいことを忘れる、午後になると（5日目）。

仕事をする気が失せる（7日目）。

思索と夢想の気質；起きているが、眠っているようで遠い；精神的または肉体的な仕事をする気にはならない（25日目）。

心を働かせることができず、憂鬱で、泣きたくなる（3日目）。

どのようなことにも安定して心を働かせることができない；はっきりと考えることができず、完全に慣れ親しんだ事実を容易に思い出すことができない（2日、2回の服用後1時間）。

放っておいて欲しい；質問に答えるのが面倒くさい（2日目）。

話すことも、話しかけられることも、考えなければならないこともなく、静かに椅子に座っていたい気分である。

自分の講義の主題に心を固定し続けることが非常に困難である；自分の考えを表現する適切な言葉が思いつかない（24日目）。

彼女は自分の症状を述べるために私のところに来たが、彼女の心はそのような状態にあり、自分ではそれを記録することができなかった（22日目）。

彼女は自分の症状を記録することができない、文句を言いたくない、しかし人を避けたくはない（22日目）。

読書はしたくない（69日目）。

考えられず、考えずに行動し、本能のように速く起き続け、急いでいるように感じるが、その理由がわからない。

はっきりした考えを持つことができない、午前8時（7日目）。

すべてが私には非現実的に見える。

一日中、間違った言葉を使いながら話す（15日目）。

間違ったことを言わないように、誰に対しても何かを言うことを恐れているが、それでも話したがっている（42日目）。